

園のおたより



第 9 号

令和 4 年 1 2 月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

様々な体験

園長 小倉 康

10月の園だよりでご紹介した「望遠鏡で空を観ると・・・」は、ふだん遊んでいる園庭から望遠鏡で見える夜の空を、園児が自宅からオンラインで観察して話を聴いたり質問したりしながら、星空に対する興味や不思議さを感じていただく機会となりました。「周辺はマンションが増えてしまい時間によってはなかなか見ることができないため貴重な機会になりました」など高評価を頂きました。様々な ICT 機器の発達と社会的な普及によって実現した体験機会です。

このように ICT 機器を活用すると、ふだんの生活では経験できない活動や、人間の感覚器官では直接感じられない事物や現象を見たり感じたりすることで、世界が広がります。物理的空間の壁も超えて海外の人たちとリアルタイムに交流することも容易に出来ます。様々な言語の壁も、瞬時に翻訳されることで支障にならなくなってきています。これからの世界で活躍する子ども達は、ICT 機器の活用が不可欠な存在となるでしょう。

しかし、幼児期の体が成長する過程では、直接体験によって自身の五感で世界を感じ、思いのままに体を動かす活動が大切であることは言うまでもありません。そのことを前提として、直接体験では経験できない活動で、かつ心や頭の成長に有効と考えられる活動は、時間的に無理のない範囲で ICT 機器を活用して採り入れる価値があると思います。

園児たちは、日々直接人や物と豊かにかかわりながら、人生の基盤となる資質・能力を体験的に身につけています。保護者としては、お子様にさらにもどのような体験をさせようかと悩まれることも多いかと思います。私の家庭も、三人の子ども達に様々なお習い事を経験させました。海外旅行にも行きました。彼らが成長した道をふり返ってみると、どの経験も、心と体と頭が健やかな大人に育ってほしいという親の願いにおいて意味があり、子ども達と過ごした楽しい思い出になっています。

皆様、親も共に楽しみながら、お子様の体験機会を大切に差し上げましょう。



誕生日

「たんたん たんたん たんじょうび♪ ○○ちゃんの ○○ちゃんの たんじょうび♪」という歌声が、時々、それぞれのクラスの部屋の中から聞こえてくる日があります。幼稚園の中では、誕生日の人がいると、クラスごとにもみなでお祝いするひととき（誕生会）を過ごしています。年齢によって会の進め方は多少異なりますが、お祝いの歌とプレゼントのほか、誕生日の人にインタビューしたり質問したりすることもあります。自分の時だけでなく、友達の誕生会も、それぞれが自分のことのように一緒に喜んでいる様子です。3組になると、この次は誰が誕生日を迎えるかわかっていて、次の誕生会を楽しみにする会話も聞かれます。

3歳から4歳へ、4歳から5歳へ、5歳から6歳へ、毎年一つ年を重ねることは、子どもたちにとって、とても大切な時です。大人にとっての誕生日ももちろん大切ですが、子ども時代には、一つ大きくなったと自分自身のことを意識し、実感できる意味があるように感じます。誕生日を迎えた後に、「○○ちゃん、○歳はどう？」と尋ねてみると、にっこりと笑顔を見せてくれたり、「うん、いいよ」と自信に満ちた顔で答えてくれたりします。そんなやりとりをすると、こちらもとても嬉しい気持ちになります。

以前は、月ごとに3クラス全員が遊戯室に集まる形で、誕生会を開催していました。その月に誕生日を迎える人に前に出てもらい紹介したり、みなでお楽しみの遊びをしたりしていました。とても楽しい会でしたが、子どもたちが誕生日当日にだけ感じる気持ちを大切にしようと、誕生日当日（土日や長期の休みの時には、どうしても前後してしまうのですが）に、短い時間でもお祝いの時間を作る形へと変更し、現在に至っています。一方で、幼稚園の全員が集まって過ごしたり、異なる年の子どもたちが関わったりする機会も大切に残そうと、「子ども会」という名称で、ひと月に一回程度開くことにしています。季節の行事と関連させたり、教育実習生とのおわかれ会を兼ねたりしながら、出し物や遊びなどを企画し、園みんなの会としています。

今年度、誕生日を迎えた人、これから誕生日を迎える人、どの誕生日も特別な大切な日です。いのちのつながりを感じながら、次に聞こえてくる「たんたん たんたん たんじょうび♪」の歌に、耳を傾けたいと思います。

今年一年、園の教育活動にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございました。ご家族皆さん、どうぞよいお年をお迎えください。

(副園長)



クラスだより



1 くみ



「友達と一緒に」

12月に入り、登園してくる子どもたちは上着、マフラー、手袋などの暖かいものを身に着けている姿が増えてきました。また、お弁当を暖飯器に入れるようになり、お昼に温かいご飯を食べるようにもなりました。登園するとご飯の入っている弁当箱をかごに出しています。先日、人数分の弁当箱がかごに出していない日がありました。その様子を見て、Aさんが「温めないとお弁当風邪ひいちゃうね」とつぶやいていました。大きな声ではない「お弁当風邪ひいちゃう」が、周りの子どもの耳に入ったようで「お弁当が風邪ひいちゃうから温めた方がいいよね」と声がかかりました。友達の声聞いて気が付いた人が、お弁当をかごにのせにやってきて、みんなで一安心した朝のひとつときとなりました。

最近の1組は、段ボールで作った自分のスマートフォンを持っています。登園するとポケットの中にスマートフォンを入れ、降園時には引き出しに入れて「充電」をします。遊びの様子を見ていると、耳に当てて「もしもし、もうすぐ電車が来るから早く来てね」「ケーキができたので来てください」と友達や先生と電話をしてやりとりをしたり、画面を指で触りながら、「退院できるので迎えに来てください。病院より」「先生へ、一緒に遊ぼうよ 送信」と、メールのやりとりをしているようなつぶやきも聞かれます。また、友達の遊ぶ姿や一生懸命頑張る姿を写真に撮ったり、動画を回すような仕草もあります。



自分だけのスマートフォンの中には、それぞれの楽しかったことや素敵だと感じたことが記録されているようです。使っていく中で気が付いたこともあるようで、担任含めて21人が同じものを持っているので、電話をするときは名前を呼ぶと伝わること、窓や壁を隔てるとつながりにくく、話がうまくいかないことがあるようです。様々な使い方を試しながら、友達や先生と同じものを介して関わっていくことの面白さを味わいながら過ごしています。

2学期は、友達と関わりをもって遊ぶことを喜んだり、楽しみにしたりしている姿が少しずつ増えてきました。3学期も友達と過ごす楽しさや一人一人の思いを大切にしながら、過ごしていきたいと思います。冬休み明けに元気に会えることを楽しみにしています。



2くみ

「大根のお味噌汁」



あっという間に12月になり、今年も残すところあとわずかです。子どもたちの話にも「クリスマス」や「お正月」といった言葉が出てきます。この時期ならではの特別な雰囲気を感じながら過ごしているところです。

10月末からプランターで育てていた二十日大根を、お味噌汁にして食べることができました。2組では、初めての野菜の栽培で、みんなで食べることをずっと楽しみにしていました。蒔いた種から芽が出て、葉が4枚になって、さらに葉が増えて。登園してくると毎日のように大根の様子が話題にあがっていました。以前から“自然”や“植物”といったものに関心がとても高かった2組の人たちですが、そこに「食べられる」という要素が加わったことで、楽しみな気持ちで、日々様子を見たり水やりをしたりして関わっていきました。いよいよ収穫と言う時には、目を輝かせながら、一人一人順番に大根を抜いていきました。大根は想像していたよりも小さいものでしたが、土に根を張る野菜を自分の手で引き抜くという体験はとても新鮮で、嬉しいひとときとなったようです。

その日の午後、みんなで用務員さんのところに行って、お味噌汁を作ってもらえるようお願いをしました。本当は1組や3組の人にも振る舞いたい気持ちもありましたが、初めて育てた野菜をまずは自分たちで食べてみよう、2組のみんなで食べることにしました。翌日、お弁当と一緒に味噌汁を頂きました。根と葉の両方、すべてを余すことなく具材にしました。味噌と大根だけのシンプルなものでしたが、自分たちで育てた野菜の味は格別だったようです。「これが葉っぱで、これが大根」など、よく見ながら食べていました。

育てる時間と比べて、食べるのは一瞬ですが、この体験から普段食べているものに関心をもったり、他の野菜にも目を向けたりして、食や自然への関心が深まっていく機会になればと思います。





3くみ

「自分の気持ちを大切に」

先日、美術館見学に行きました。美術館に入る前に公園内に一つ作品を見つけると「これは象のDNAなんだよ」と形から想像を膨らませ、作品について話す人がいました。そこから、その作品について「象かもしれない」「いや、宇宙人だ」と話し合う子どもたち。正解がないからこそ、友達の感じたことも想像を膨らませる一つのきっかけとなっているようでした。

公園内を進み、楽しみにしていた館内へ入ります。作品を見る前に、作品運搬用のエレベーターに乗せてもらいました。作品しか乗れないものなので、扉が閉まるとみんなも作品に変身することになりました。乗る前は「分からないからやらない」と呟いていた人も、いざ作品の時間になると“動かない”ことで美術作品になりきり、“作品になる”という言葉から自分なりに感じたことを、全身で表現することを楽しんでいました。

作品になる時間が終わるといよいよ鑑賞の時間です。「このオレンジは金魚に見える」「このピンクのはクラゲかな」「緑がたくさんあるから怖い」と自分が感じたことを自然と友達と呟き合いながら進んでいきます。一つの作品に対して、一人一人違う感じ方があり、子どもたちの中に広がる世界はこんなにも面白いものにあふれているのだと改めて感じました。

また、作品を鑑賞する前に学芸員の方から、「作品を見て感じた気持ちは自分だけのものだから大切にしてください」と教えてもらいました。鑑賞中、「次は下からじっくり見る時間だ」と誰かが呟くと、一緒に回っていた人もおもむろにしゃがんで下から作品を見てみたり、誰かが作品の形を真似してみるとその横で真似をしてみたりする姿がありました。自分が感じたことを大切にするだけでなく、友達の感じたことも大切にする姿にみんなの心が成長していることを感じ、嬉しい気持ちになりました。

2学期には、運動会、サツマイモパーティーなど学級のみんなで一つのことに取り組む中で、アイデアを出し合ったり、みんなで力を合わせたり、友達の存在を認め合うような姿をたくさん見ることができました。時折、友達と思いがすれ違うこともあります。その中で自分の思いを友達に伝え合い、友達の思いに気付く中で、自分のことも友達のことも大切にしていけるよう、3学期の生活も支えていきたいと思っています。